

今月の一言

キーワード：全国学力テスト

文部科学省は二十四日、小学六年と中学三年の全員を対象に実施した全国学力・学習状況調査（学力テスト）の結果を公表した。公立校の集計で富山県は、成績に当たる「平均正答率」が小中学校とも各教科で全国平均を上回った。中学国語は、基礎的知識を問うA問題で全国平均より4・1ポイント高い85・7パーセント、活用力をみるB問題は5ポイント高い77・0パーセントで、いずれも全国一位だった。県教委は「全体として良好だった。今後は結果を詳細に分析したい」としている。

学力テストと同時に実施した生活実態の調査では、起床や就寝時間がほぼ決まっているとした児童生徒の割合が全国平均より高い。「朝食を必ず食べる」「学習塾に通っていない」「携帯電話を持っていない」などの項目も全国平均より高かった。「生き物を飼育したことがある」「海や山などで遊んだことがある」などの項目は低かった。

文部科学省によると、生活習慣や規範意識で肯定的な回答をしている子どもほど、正答率が高い傾向が明らかだった。「教育県・富山」の屋台骨は、学校、家庭、地域の三位一体で支えられてきた。家庭や地域の教育力低下が叫ばれる中、単に授業や指導の改善にとどまらず、保護者や地域社会との連携をより強める方策も求められる。（北日本新聞より抜粋）

今年度福野小学校PTA会長をしていますが、この記事が発表されるときに富山県で富山市と南砺市が成績を発表するとのことで北日本新聞の取材があり、学力テストの結果を南砺市として学校ごとの成績を発表することにどう思うかとの質問でした。学力は低いより高いほうが良いと思う。そして各学校の学力を発表することによって、先生も父母も子育てに対して真剣に取り組むのではないか。また、学力も大切だが「挨拶をする・モノを大切に作る・人を思いやる・片付けをする etc.」一人の人間として、「道徳心と当たり前のことが当たり前ができる」子育てが必要だとコメントをしました。当社においても同じです。

2007年11月22日

さいのう とおる

追伸：今年も残り少なくなってきました。そろそろ一年を振り返って来年に！